

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

ラモー
歌劇「ダルダニユス」組曲から
RAMEAU: Excerpts from "Dardanus" Suite

モーツァルト
ヴァイオリン協奏曲 第5番
イ長調 K.219「トルコ風」
MOZART: Violin Concerto No. 5 in A major,
K. 219 "Turkish"

ベートーヴェン
交響曲 第7番

イ長調 作品92
BEETHOVEN: Symphony No. 7
in A major, op. 92

花咲き乱れ、
心踊る週末。

春の
ベートーヴェン

Sylvain Cambreling

Beethoven
Symphony No. 7

色彩感あふれる
音楽づくりで、世界の聴衆を
魅了するフランスの名匠

シルヴァン・
カンブルラン 読響常任指揮者
SYLVAIN CAMBRELING, Conductor

類稀なる音楽性を持ち、
名門オランダ・バッチ協会の
音楽監督に就任する新鋭

佐藤 俊介 ヴァイオリン
SHUNSUKE SATO, Violin

読売日本交響楽団
第206回 土曜マチネーシリーズ

2018 4.7(土) 14:00

東京芸術劇場
コンサートホール

S ¥7,500 A ¥5,500
B ¥4,500 C ¥4,000

SATURDAY MATINÉE SERIES No. 206
Sat. 7th Apr. 2018 14:00
Tokyo Metropolitan Theatre

読売日本交響楽団
第206回 日曜マチネーシリーズ

2018 4.8(日) 14:00

東京芸術劇場
コンサートホール

S ¥7,500 A ¥5,500
B ¥4,500 C ¥4,000

SUNDAY MATINÉE SERIES No. 206
Sun. 8th Apr. 2018 14:00
Tokyo Metropolitan Theatre

読響チケットセンター
0570-00-4390
(10時-18時・年中無休)

〈主催〉
読売新聞社、日本テレビ放送網、
読売テレビ、読売日本交響楽団
〈事業提携〉
東京芸術劇場

しなやかに、華麗に。 カンフルランが振る バロック&古典派音楽

山崎浩太郎 (音楽評論家)



読響常任指揮者
シルヴァン・カンブルラン
SYLVAIN CAMBRELING, Conductor

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導く名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得ている。現在、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めるほか、クラウフォーラム・ウィーンの首席客演指揮者も兼任している。ベルギー王立モネ歌劇場とフランクフルト歌劇場の音楽監督、バーデン・バーデン&フライブルクSWR響の首席指揮者を歴任。世界の一流楽団に客演するほか、ザルツブルク音楽祭などでも活躍している。17年11月には読響とメシアン(演奏会形式)を披露し、『音楽の友』誌の「コンサート・ベストテン2017」で第1位に選出されるなど絶賛された。

■人気の高い交響曲というのは、タイトルや愛称があるものが多い。ベートーヴェンなら「英雄」や「運命」などがそう。そういうものがある方が、聴くときにイメージがわかりやすいからだろう。

■ところが今回のメインである、ベートーヴェンの交響曲第7番にはそうしたものが無い。ないのに、人気が非常に高い。その意味で、珍しい作品である。第1楽章にはユーモラスな動きと弾力があり、第2楽章は悲しげなメロディだが、しかし静かに舞うような、不思議な優美さがある。第3楽章から第4楽章にかけては、沸きたつようなリズムの勢いがものすごい。副題がなくても、音楽そのものの生命力が、とてもわかりやすい。

■指揮をするカンフルランは、バレエの国フランスの出身だけに、しなやかに華麗に、泉水が陽光にきらめきながらほとばしり出るように、この音楽を響かせてくれるだろう。



■ベートーヴェンの前に、まずカンフルランと同じフランスのラモーの作品が演奏される。バッハと同じ時代、18世紀前半にパリで活躍したラモーは、バレエも活躍するオペラを書いて人気を博した。古代ギリシャの伝説に基づく「ダルダニウス」もその一つである。

■続くモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番は「トルコ風」という愛称の通り、第3楽章にトルコの軍楽隊を思わせる行進曲が登場する。

他の2曲同様、ここでもリズムのセンスがポイントになる。独奏をつとめる佐藤俊介は、モーツァルト時代の楽器や演奏スタイルにも精通している俊英ヴァイオリニストだけに、生き生きとした演奏が期待できる。

■18世紀前半から19世紀初め、バロックから古典派へと、優美さのうちにも力強さが増していく時代の3曲。カンフルランと読響は、ラモーの曲を2009年に、ベートーヴェンを2011年にすでに演奏したことがある。それから共演を重ね、熟成してきたコンビによる再演がどのような充実ぶりをきかせるか、楽しみだ。

ヴァイオリン
佐藤 俊介
SHUNSKA SATO, Violin

オランダを拠点に活動する新鋭ヴァイオリニスト。1984年東京生まれ。カーティス音楽院やミンヘン音大などで学ぶ。これまでデミルカーノフ、ジョン・ミュンファン、ゲルギエフ、ギルバート、ナガノ、ジンマン、岩城宏之、尾高忠明らの指揮で、バイエルン放送響、ハンブルク響、サンクトペテルブルク響、マリンスキー劇場管、フランス放送フィル、ネザーランド・フィル、ミネソタ管などと共演。古典から現代まで幅広いレパートリーを持ち、最近では近現代曲にも積極的に取り組んでいる。室内楽活動も活発で、シュタイアー、ショルンスハイム、エガー、鈴木秀美らと共演を重ねる。現在、コンチェルト・ケルン及びオランダ・バッハ協会のコンサートマスターを務めている。2018年6月にオランダ・バッハ協会の音楽監督に就任する。



©Yat Ho Tsang

読売日本交響楽団 第206回 土曜マチネシリーズ

2018年4月7日(土) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

読売日本交響楽団 第206回 日曜マチネシリーズ

2018年4月8日(日) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

東京芸術劇場コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111

●JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分
(*駅地下通路2b出口と直結しています)

【読響サービス】東京芸術劇場には一時託児施設があります(公演1週間前までに予約)。わらべうた0120-415-306(予約受付:平日9時-17時) 学生券:学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を通ぐことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296